

2 (仮称) 動物愛護センター整備の検討経緯について

(1) 動物愛護センター整備の検討経緯

本市では、狂犬病予防法等に基づき、捕獲した犬を犬管理所（平赤井地内）に収容しているが、県が昭和 42 年度に建設したものを中核市移行に伴い本市に移譲された際、大規模改修工事を行っていることから強固な建物ではあるが、築 50 年を経過した犬保護専用施設であり、何より、空調設備がなく多頭飼育の構造であるため、動物愛護に配慮したものとはなっていない状況にある。

このようなことから、平成 23 年度から 26 年度にかけて動物愛護センターの整備に向け、関係機関や団体等を構成員とした各種検討委員会等を設置して議論を重ね、ポリテクセンター跡地（内郷綴町舟場地内）を候補地としたところではあるが、庁内合意には至っていない。

○平成 23 年度 市動物愛護行政のあり方検討懇談会による検討

○平成 24 年度 「市動物愛護行政のあり方に関する提言」を受ける

○平成 25 年度 「市動物の愛護と管理に関する基本的な方針」を作成

○平成 26 年度 動物愛護センター整備検討委員会、庁内会議による検討

(整備検討委員会における検討結果の概要) 収容頭数（犬 60 頭、猫 27 匹）

区分	主な施設・機能等
愛護啓発部門	エントランス、展示コーナー、図書コーナー、研修室、ボランティアルーム、ふれあい動物飼育室（犬・猫・小動物）、ふれあいコーナー（大・小）、グルーミング室、便所、倉庫、通路、風除室
保護管理部門	保護収容室（犬・猫）、隔離室、飼料室（災害備蓄）、健康管理室、X線室、処分室、焼却室、プラットホーム
事務部門	事務室、会議室、更衣室、シャワー室、給湯室、機械室、休憩室
屋外施設	ふれあいドーム、多目的広場、駐車場

○延床面積：1,300 m²程度（鉄骨・鉄筋コンクリート造平屋建）

○本体建設関連費：10 億円程度

動物愛護センターを整備するには、多額の費用を要し、国県等の補助金（特定財源）に乏しいなど財政上の課題があるが、何より、事業に対する市民の理解が困難であると考えられ、市民への説明責任を果たすためにも事業費の圧縮を図る必要があるとの結論に至った。このことから、廃校施設等の遊休市有財産を有効に活用することを念頭に、旧永井中や旧永戸小等への整備に向けて検討を進めたところであるが、建設地等の決定には至らなかったところである。

このような状況の中、犬猫の収容や殺処分頭数が減少傾向にあること、及び動物愛護センターの保護管理部門については、周辺環境への影響や動物焼却設備の付帯等もあり、地域の理解を得ることが困難であるため、同部門の役割を担っている既存の犬管理所を利活用することが妥当であること、経費的にも時間的にも大幅に縮減できることから、愛護啓発部門と保護管理部門を分離して整備し、機能的な連携を図ることで庁内決定を受けたところである。整備の進め方としては、保護管理部門の機能を担っている犬管理所の整備を先行すること、愛護啓発部門については、規模や機能等を見直した上で、遊休市有財産を有効に活用した整備を行うこととしたところである。

(保護管理部門の概要)

① 犬猫収容棟 (新築)

譲渡対象の犬、譲渡対象及び保護観察の猫を収容し、愛護啓発部門を整備する間において、新たな飼主への譲渡を促進する。また、収容動物の適正管理を行うため、処置室や感染症対策のための隔離室等を設ける。

ア 延床面積 64 m²程度 (収容頭数：犬 12 頭、猫 15 匹)

イ 施設構成 犬猫飼育室、処置室、隔離室、引渡室、犬運動場

② 既存施設 (改修)

捕獲犬を収容し、譲渡適性を観察する。老朽部分を改修する。

・収容頭数 犬：6 頭

③ 概算事業費 8,800 万円

④ 愛護啓発部門の整備に向けて

平成 31 年度から候補地選定や整備概要、概算事業費の算出等に本格的に着手し、34 年度以降に建設着手とする。

⑤ 事業スケジュール

- ・平成 31 年度 保護管理施設の設計、愛護啓発施設の検討 (～33)
- ・平成 32 年度 敷地造成工事
- ・平成 33 年度 新築棟の建設、既存棟の改修、保護管理施設の供用開始
- ・平成 34 年度以降 愛護啓発施設の整備に着手

(2) 整備検討市民委員会による検討

平成 30 年 11 月市議会定例会において「(仮称) いわき市動物愛護センターの早期建設を求める請願書」が採択されたことを重く受け止め、平成 31 年度において、候補予定地の住民代表の皆様をはじめ、獣医師会や動物愛護関係団体、学識経験者など、市民各界各層の皆様を構成員とした「動物愛護センター整備検討市民委員会」を設置し、市民意見の調整を図っていく。

① 整備検討市民委員会の構成

地域団体、まちづくり団体、保健・福祉団体、商工団体、教育団体、動物愛護団体、学識経験者、公募委員 計 21 名程度

② 現時点における候補予定地

A ポリテクセンター跡地 (内郷綴町舟場地内)

B 総合保健福祉センター敷地内 (内郷高坂町四方木田地内)

C 総合保健福祉センター敷地内と犬管理所 (平赤井地内、既存施設) との併用

※ 内郷地区への整備は、交通利便性の高さや保健所が持つ機能との連携を図ることができ、加えて、総合保健福祉センターへの整備は、動物収容室、処置室及び駐車場等の既存施設や、保健所の人員・事務機能を有効に活用することができる。

③ 候補予定地の比較 別紙のとおり

(3) 令和元年度における実施事業

① 動物愛護センター整備検討市民委員会における検討

② 犬管理所の動物飼育環境の改善

- ・空調設備の設置
- ・収容犬の個別飼育化